



枕崎弁
『すんくじら狂句』

■投稿先 総務課秘書広報係 TEL72-0033

秋ん夜長 読書ん友達や 寝待ち月
(唱) 夜食は腹這つ 十三里だつち (54歳)
はしくらん まごんまえきて はんたおれ
(唱) ぢうぢがいだがち 泣つきやまんがら
(唱) ぢうぢがいだがち 泣つきやまんがら
(宮崎市在住 富士婦さん 55歳)

十円もろつ お絵描帳を 上坪で
(唱) ヤボんの頃は むぞがつたに (兼題が「10」の句)
ぬんめだぞ ウォッシュレットン 便座をば
(唱) ひやんちすれば へっくんでやな
【謎掛け】 「運動会」とかけてなんととく
【不況】 ととく、そのところは？ 右下に答え

S-1グランプリに出品する「枕崎鯉船人めし」



漁船漁具、 鰹節製造具の変遷②

= 第二十回 =

わが町の昔を訪ね
ロマネスク

市文化財保護審議会委員のちゃんとサネさんが、枕崎の昔をかたる場所や物を訪ねて、ようよう一句ひねります。

帆

船時代の船上生活。米は海水で研ぎ、清水で洗つて炊いていましたが、塩味があつておいしいものでした。

一人前の飯の量は、二合枠に飯を詰めた物を打ち出したものが2つで、打出しの飯(二合飯)と呼ばれ、入港日には食べ残しが2つで、大好きなカツオであれば8分の1ずつ、小型のカツオであれば4分の1ずつと決められていました。野菜は乗船するものが各々大根や乾燥した野菜を持ち込み、個人ごとに串に刺したり縄で縛つたりして鍋に入れて煮ました。そ

して、自分のものを取り上げて食べましたが、船内には親子や兄弟がいるので、それらの人と分け合つて食べました。当時の便所は、船尾に一段低く台木があり、船尾に一段低く台木が

17頁より抜粋

イスター検定公式テキスト1

17頁より抜粋

◎「枕崎鯉船人めし」テーマソング→ <http://www.voiceblog.jp/wkunig2/>

秋ん夜長

読書ん友達や

寝待ち月

(宮前町 富士婦さん 55歳)

はんたおれ

54歳)

【謎掛け】 「運動会」とかけてなんととく

【不況】 ととく、そのところは？ 右下に答え

はんたおれ

54歳)

【謎掛け】 「運動会」とかけてなんととく

【不況】 ととく、そのところは？ 右下に答え